

久保田HD

社会的包摂の意識持った施設開発着手

# 多様性に富む投資活動の展開続く

## 地域振興主眼に仙台圏から国内全域へ

不動産開発・運営事業等を展開している久保田本店を中核とする久保田ホールディングス(仙台市青葉区一番町4の4の33 久保田代表取締役)が、2023年もアグレッシブかつ多様性に富んだ投資活動を展開した。福祉施設開発など投資の幅を広げ、現代社会の実情の中で求められている社会的包摂の理念をも意識した投資内容となっていることがうかがえる。今後は、仙台圏で約40億円規模の商業施設開発に投資することも検討している。



久保田代表取締役

宮城県内ではこのほか、同じ仙台市西部地区の青葉区愛子地区にある「ヨークタウン仙台愛子」を構成する施設のうち、ナショナルブランド

東北自動車道の宮城ICからほど近い仙台市青葉区折立1の114地内の敷地面積1787平方メートルを対象に、医療と介護機能を提供するナーシングホーム的オペレーションを特徴とする住宅型優良老人ホームの施設建設に近く本格着工する。施設定員は約40人で、24年7月の完成を予定、中城建設が設計・施工を担当する。

宮城県内ではこのほか、同じ仙台市西部地区の青葉区愛子地区にある「ヨークタウン仙台愛子」を構成する施設のうち、ナショナルブランド

ドの飲食・物販等施設の借地権付建物を新たに取得し、発展著しい愛子地区の商業環境を支えている。昨年あたりからは県外の国内主要地域での投資活動も目立ちはじめ、東京都の都心部中央区八丁堀地区で開発していたオフィスビルは24年3月の完成予定を前に、すでに購入オファーを受け契約に向けた協議を進めているほか、札幌市のJR札幌駅徒歩約6分の至近にある場所にも3月完成予定のオフィスビルを開発中

で、同様に売却に向けてクローキングの手続きに入った。札幌市内では西区二十四軒二条三丁目地内で建設したRC造5階建て賃貸レジデンスが今年春に完成し運用資産に新たに加えられた。国内でもインバウンドの動きが活発な北海道内を近年、最重要投資エリアの1つとして位置付けており、複数施設の保有に至っているという。

観光需要の高まりという観点では沖縄県の有名なりゾート地である北谷地区で、すでに自社所有地に大手民泊施設運営企業と連携し戸建タイプの施設を運営しているが、最近ここに新たに2棟を追加し5棟体制まで拡充。旺盛なりモートワークなどのニーズに支えられ高稼働率の状態が続いている。

久保田ホールディングスの不動産としての保有資産は現在、オフィスビルや商業・飲食ビルが21件前後、レジデンスなど住宅系用途が12件前後、このほか太陽光施設などで資産ポートフォリオを構成している。近く岩手県一関市の厳美渓近くで4メガ規模の太陽光施設に、およそ18億円規模の投資を行うなど、脱炭素社会の構築に向けた自然エネルギーへの投資への配慮にも怠りを見せない。同HDの久保田代表は「仙台圏の約40億円規模の新たな商業施設開発への投資なども目下検討中」と、自身が描く今後の投資シナリオの一部を明かし、24年以降具体化が図られる見通しの公民連携事業である岩手県北上駅西口土地活用事業などの着手も前に、「開発やリセール、資産運用で得られる利益を国内の地域振興に主眼を置いた新たな投資に回すことで地域デベロップメントとしての責務をこらからも果たしていきたい」と力強く語っている。

安藤ハ 鹿内組 は建設 している  
日本 東 日 社  
JR 新 潟 支 社  
山形県 線を跨 について  
事業化 も酒田 債務負 0万円 している  
同市 田跨線 は、1 60年 ことか 命化を 査設計 委託・ に配慮 す形で